



《どげざのためのプラクティス》ビデオ 2020

Co-program 2020 カテゴリー B 採択企画

黒田大スケ

『未然のライシテ、 どげざの目線』

Laïcité Forestalled, Through the Eyes of Dogeza

Co-program カテゴリーBでは、アーティストと京都芸術センターが共同で展覧会の実現に取り組みます。
今年度は美術家・黒田大スケと共同で、展示『未然のライシテ、どげざの目線』を開催します。

日本において銅像をはじめとする公共彫刻は、ただの彫刻というよりも、その像のモデルとなった人物と同一視されたり、あるいは服を着せられ食事を供えられたりと、しばしば人格を持った人間のように扱われます。例えば京都芸術センターの入口にある二宮金次郎にマスクがつけられているように、ごく自然な振る舞いとして日常の中に溶け込んでいます。ところでこうした感覚は何処からやってきたのでしょうか？

本展は、京都市内にある有名な公共彫刻の霊性をあらゆる実験的芸術的アプローチによって視覚化し、認識した上で引き剥がし取り除こうとする、美術家・黒田大スケの試みを紹介します。

黒田は歴史、環境、身体の間にある「幽霊」のように目に見えないが認識されているものをテーマに活動する美術家で、これまで芸術祭などでの大掛かりなインスタレーションやビデオ作品の制作、アーティストコレクティブ「チームやめよう」の主宰など多岐に亘り活動してきました。2017年に韓国の

仁川の自由公園でマッカーサーの銅像を見て以来、自身の制作の基礎となっている「彫刻」について省みるようになり、1930年代の東京美術学校彫刻科への留学生に関するリサーチと制作をスタートし、東アジアに亡霊の如く横たわる近代的な彫刻概念を明らかにする事に取り組んできました。今回は、黒田のこれまでのリサーチと制作を土台とした、京都の公共彫刻に関する新作を公開します。

展覧会では、銅像そのものや銅像の下敷きとなった者の視線を取り出す為に、銅像の身体をカメラに見立てた作品「カメラオブスタチュ」を制作し、京都の街の風景を撮影したり、イタコのごとく自身の身体から「彫刻」を取り除こうとするパフォーマンスなど、京都の街と公共彫刻の関係性に関するリサーチを基に、ユニークな手法で制作された作品を発表します。フランス語で「政教分離」を意味する語である「ライシテ」と展覧会のタイトルにもあるように、作品はもちろん、展覧会自体が「公共彫刻の霊性を視覚化し取り出すことで、彫刻をただの彫

刻と捉え直す」というコンセプトに貫かれたものです。一連の作品を通じて、近代以降の「彫刻」のあまり省みられなかった歴史を紐解き、その成り立ちと像の持つ意味について再考し、これからの彫刻表現のあり方や芸術と公共の関係性について考えていく場を作り出すことを目指します。また、春から取り組んできた京都の公共彫刻のリサーチもお披露目しますので、こちらもご期待ください。

他人の視線や目線を気に留め始めると自分の目線がいつの間にか変わってしまっていることがよくあります。この2月、3月の待ち合わせは「センターのどげざ」前で！ 水野慎子（アートコーディネーター）

Profile

黒田大スケ
(くろだ・だいすけ)

1982年京都府生まれ。2013年広島市立大学大学院総合造形芸術専攻（彫刻）修了。橋本平八「石に就て」の研究で博士号取得。2019年文化庁新進芸術家海外研修制度で渡米。帰国後、関西を中心に活動している。最近の展覧会に「本のキリヌキ」（瑞雲庵、2020）、「ギャラリーラック」（京都市街地、2020）等がある。
WEB: <https://sites.google.com/view/daisuke-kuroda/home>



《彫刻に聞く》の1シーン(中央:黒田大スケ) 台湾

Co-program 2020 カテゴリーB採択企画

黒田大スケ『未然のライシテ、どげざの目線』

日時：2月20日(土)ー4月4日(日)

10:00ー20:00 ※3月1日(月)休廊、入場無料

会場：ギャラリー北・南、他

出展作家：黒田大スケ

主催：黒田大スケ、京都芸術センター

【関連企画】

会期中にオンラインのトークイベントなど開催予定です。詳細はウェブサイトをご確認ください。



《カメラオブスタチュー“撮影の様子”》2020



《カルマ》ビデオ 2019

EVENT CALENDAR

2021.02

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、
TEL、FAXで事前にお申込ください。
チケット窓口でも受け付けます。※各種年齢別・学生料金は要証明書提示
なお、新型コロナウイルスの影響により予定が変更になる場合がございます。
最新情報はWEBでご確認ください。

略称
日 …… 日時
演 …… 演目、曲目
共 …… 共催
場 …… 会場
料 …… 料金
問 …… 問合せ
席 …… 席主
定 …… 定員
対 …… 対象
出 …… 出演、出展
主 …… 主催

アイコン
美術 伝統 茶会 ダンス 演劇

※1/14時点での情報を掲載しています。開催状況はウェブサイトにてご確認ください。

1/29 Fri. 31 Sun.

KAC Performing Arts Program 2020 / Theater

「21世紀の戯曲を読む会」

演出家や俳優を進行役に迎え、21世紀に書かれた戯曲を、参加者が声に出して読み、共に考えます。

日1月29日(金)ー31日(日) 場フリースペース、大広間 出阪本麻紀、谷竜一、野村真人、村川拓也、山口浩章 料無料 ※要事前申込

2/6 Sat.

伝統芸能文化創生プロジェクト

シンポジウム&公演「疫病と芸能」

日2月6日(土)開場・受付13:30、開演14:00 場講堂 出シンポジウム：寺田詩麻、中尾薫、中川眞／実演：橋本雅夫、井上安寿子ほか 料無料 出50名(予定) ※先着順／要事前申込 出伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス ※P3もご覧ください

2/7 Sun.

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

柳川三味線・和紙胴「響」お披露目会

日2月7日(日)開場14:30、開演15:00 場講堂 出林美恵子、林美音子ほか 料無料 出50名(予定) ※先着順／要事前申込 出伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス、林美恵子 ※P3もご覧ください

2/11 Thu. 14 Sun.

KAC Performing Arts Program 2020 / Theater

「21世紀の戯曲を読む会」

日2月11日(木・祝)ー14日(日) 場フリースペース、大広間 出穴迫信一、合田団地、中村彩乃、山田由梨、横山拓也 料無料 ※要事前申込

2/13 Sat. 27 Sat.

第152回 明倫茶会 英ゆう

展覧会「作庭ひらく」

日2月13日(土)ー27日(土)10:00ー20:00 場和室「明倫」 料無料 ※2月22日、23日は明倫茶会のため休廊 ※P4もご覧ください

2/23 Tue.

オンライン茶会『帰家穩坐』

日2月23日(火・祝)11:00／14:00／16:00(全3回) 場オンライン ●席主：英ゆう、お点前：植彦(甘雨庵) 料2,000円(お茶の葉、お菓子、竹の茶碗や茶会などのキット代を含む) ●申込：京都芸術センターウェブサイトにてご案内する専用申込みサイトをご覧ください (https://www.kac.or.jp/events/29675/) 出各席15名(先着順／要事前申込) ※P4もご覧ください

2/17 Wed. 22 Mon.

Co-program 2020 カテゴリーC採択企画

川瀬亜衣「statement:ダンサーを記録する2020-2021」ダンス公演・展示

日2月17日(金)ー22日(月) ※P3をご覧ください

2/20 Sat. 4/4 Sun.

Co-program 2020 カテゴリーB採択企画

黒田大スケ『未然のライシテ、どげざの目線』

日2月20日(土)ー4月4日(日)10:00ー20:00 ※3月1日(月)休廊 場ギャラリー北・南、他 料無料 出黒田大スケ 出黒田大スケ、京都芸術センター

図書室休室日：2月26日(金)

PICK UP

2/26 Fri. 28 Sun.

Co-program 2020 カテゴリーD採択企画

BARACKE

『イグレーヌ・バリエーション〜コロナウイルス感染症下、私たちはいかに「タンタジールの死」を読むか?〜』

BARACKEはここ数年、モーリス・メーテルラン原作の人形劇の一つ『タンタジールの死』に向き合い続けています。2019年の部分上演、2020年全編上演を経て、この2月の公演でコロナ禍の生活というフィルターを通して、愛する人を失うという悲しみに向き合った新たな解釈に挑みます。更に、今作はより深く作品を理解するために出演者自らが一年にわたってじっくりと戯曲の翻訳に取り組み、議論を重ねてきた意欲作です。コロナ禍でのクリエイションから見えてきたBARACKEが繰り広げる表現にご期待ください!

日2月26日(金)、27日(土)★、28日(日)★ ★は終演後に大広間にて、過去の上演作品の上映会&レクチャーを予定 ※公演時間はウェブサイトをご確認ください 場講堂 料一般2,500円(前売券のみ) ●申込・WEB：http://baracke.official.ec/ 出BARACKE E-mail：baracke.jp@gmail.com(横田) 出京都芸術センター

Profile

BARACKE (バラック)
BARACKEとは「仮設の建物」という意味です。舞台芸術に関わるあらゆる研究と実践を求める芸術家にかかれた、創作の場です。特定のメンバーを持たず、プロジェクト毎にメンバーを集い、研究者や実演家が表現の壁にぶつかったことや問題について、共に考え、解決に取り組みます。

制作支援事業

(制作室使用者による公演・展覧会)

ロームシアター京都 レパトリーの創造

松田正隆作・演出『シーサイドタウン』

松田正隆による新作戯曲を、ロームシアター京都の新たなレパトリー作品として上演。
日1月27日(水)ー29日(金)19:30、30日(土)14:00／19:00、31日(日)14:00 場ロームシアター京都 ノースホール(左京区) 料一般3,500円、U25 2,000円、高校生以下1,000円 出ロームシアター京都(担当：齋藤) TEL：075-771-6051 E-mail：info@rohmtheatrekkyoto.jp WEB：https://rohmtheatrekkyoto.jp/

ルサンチカ『GOOD WAR』
市井の人々に争いについて取材を行い、制作し上演します。
日2月5日(金)19:00、6日(土)11:00／15:00 場京都府立文化芸術会館(上京区) 料前売一般2,500円／U30 2,000円 ※当日は各500円増、高校生以下500円 出ルサンチカ E-mail：ressenchka@gmail.com WEB：https://www.ressenchka.com

まいやゆりこ『かむじゅうのぼうけん〜うみのしゃぼんだま〜』
劇場には、明かりや音、舞台セットや俳優さんなど、面白いものがいっぱい! こどもたちの想像 / 創造力をプラスして、お話の世界で遊びましょう!
日2月13日(土)、14日(日)11:00 場アイホール(兵庫県伊丹市) 料前売一般1,000円／学生500円 ※当日は各200円増 場TEL：072-782-2000 E-mail：info@aihall.com WEB：http://www.aihall.com

辻本佳 新作公演『洞』
音響装置、美術、ダンスを用いて、劇場空間への実験的なアプローチに挑戦する。
日2月18日(木)ー20日(土)19:00、21日(日)15:00 場THEATRE E9 KYOTO(南区) 料前売一般3,500円／U29 2,000円 ※当日は各500円増 写真付き応援チケット6,000円 出辻本佳 E-mail：tsujimoto.yoyaku@gmail.com WEB：https://keitsujimoto.wixsite.com/fieldpray

ソノノチ 上演パフォーマンス作品『風景によせて2021』
“風景画”ならぬ“風景演劇”。遠景から眺めるパフォーマンス作品。
日2月27日(土)、28日(日) 場京都府内 出E-mail：info@sononochi.com WEB：http://sononochi.com http://landscape.sononochi.com/

伝統芸能文化創生プロジェクト

シンポジウム&公演「疫病と芸能」

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(通称：TARO)では、年一度、特定のテーマを設定したシンポジウムと公演を開催しています。今回のテーマは「疫病と芸能」。疫病に立ち向かうために種々の芸能が生まれてきたと言っても過言ではありません。古典芸能と民俗芸能の

研究者によるシンポジウムと、京都を代表する能楽や京舞の上演およびやすい花の展示・解説を通じて、新型コロナウイルス退散を祈願します。当日の記録映像は、YouTubeのTAROチャンネルにて後日公開します。

第一部 シンポジウム ●登壇：寺田詩麻(龍谷大学文学部准教授)、中尾薫(大阪大学大学院文学研究科准教授)、中川眞(大阪市立大学特任教授) ●ファシリテーター：竹内有一(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授)	第二部 実演 能・素謡『神歌』 ●出演：橋本雅夫、橋本充基、橋本光史、深野貴彦、宮本茂樹 京舞『三番叟』 ●出演：井上安寿子 ●解説・展示：やすい花 ●協力：今宮やすらい会、福持昌之(京都市文化財保護課文化財保護技師)
---	---

日2月6日(土)開場・受付13:30、開演14:00 場講堂 出50名(予定) ※先着順／要事前申込 ※1月24日(日)10:00より受付開始 WEB：http://www.traditional-arts.org/ TEL：075-255-9600 E-mail：taro@kac.or.jp 出伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

柳川三味線・和紙胴「響」お披露目会

柳川三味線のための
胴皮新素材開発の成果発表。

柳川三味線の胴皮に用いる猫皮は年々入手が困難になってきているため、代替品として和紙胴「響」の開発に取り組んできました。その成果として、和紙胴の柳川三味線による演奏と、本皮と和紙胴の聞き比べ、また音響スペクトル分析の報告を行います。



和紙胴「響」

日2月7日(日)開場14:30、開演15:00 場講堂
●演奏：『玉椿/袖の雨』『戯れ』 ●三味線：林美恵子、林美音子
本皮と和紙胴「響」の聞き比べ ●司会：井口はる菜(関西外国語大学外国語学部講師)
音響スペクトル分析の報告 ●報告者：津崎実(京都市立芸術大学音楽学部教授)
出50名(予定) ※先着順／要事前申込 ※1月24日(日)10:00より受付開始 出林美恵子、伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)

申込方法

ウェブサイトからお申込みください。難しい場合は、電話かメールでお申し込みください。
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響によっては、開催方法の変更や中止となる場合がございます。

TICKET

[チケット]

第261回市民狂言会

日3月5日(金)開場18:00、開演19:00 場京都観世会館(左京区) 場節分、磁石、小舞(雪山、吉の葉、七つに成る子)、縄鉤 出茂山七五三、あきら、千五郎、宗彦、茂ほか 料前売3,000円／当日3,500円 ※全席指定 ●チケット取扱：京都芸術センター、チケットぴあ(Pコード：502-353)

KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING

中間アヤカ&コレオグラフィ
『フリーウェイ・ダンス』
日3月19日(金)ー21日(日)15:00
※21日ポスト・パフォーマンス・トークあり

ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル

『私がこれまでに体験したセックスのすべて』
日3月26日(金)19:00、27日(土)、28日(日)17:00
※27日ポスト・パフォーマンス・トークあり

場講堂 料一般3,000円／U25・学生2,500円 ※当日は各500円増、高校生以下1,000円、ペア(前売のみ)5,500円 ●チケット取扱：京都芸術センター窓口、KYOTO EXPERIMENT事務局窓口ほか

Co-program 2020 カテゴリーC(共同実験)採択企画

川瀬亜衣「statement:

ダンサーを記録する

2020-2021」

公には声を聞く機会の少ないダンサー個人の言葉や語り。このプロジェクトでは、それらを多視点で書き出した冊子を制作します。今年度はプロジェクトメンバーとしてダンサーと記録者を公募。ダンサーは、自身の言葉で自身のダンスを書き出し、記録者は、ダンサーやダンスを媒体・手法を問わず記録し、それらを1冊の本に綴じて残します。昨年10月よりリサーチを重ね、この2月にはワークインプログレス公演／展示を実施。これを経て、冊子制作へ進みます。プロジェクトを通して、ダンスへの多様な眼差しを示します。現在地のダンサーたちのダンスを、言葉と身体に行き来させて。

公演 日2月20日(土)ー21日(日) 場講堂 出五十嵐香里、桂勤、土居大記、村上和司 ※各日1回公演、有料
展示 日2月17日(水)ー22日(月) 場ミーティングルーム2 出奥田ケン、仙波晃典、土居大記、宮崎淳子ほか
※入場無料
※最新情報は、ウェブサイトにてご確認ください
https://www.tumblr.com/blog/statement-recordsdancers
出川瀬亜衣(「statement:ダンサーを記録する」)、京都芸術センター 出recordsdancers@gmail.com



京舞



重要無形民俗文化財「やすい花」今宮やすらい花保存会



「statement:ダンサーを記録する2020-2021」リサーチ風景
撮影：遠藤僚之介

Profile

川瀬亜衣 (かわせ・あい)
1987年京都府生まれ。ダンサーとして様々な振付家、演出家の作品に出演。2018年より自身の創作の場として「書き文字を辿り踊る」シリーズを、2019年よりダンサーとして活動していくための問題意識から「ダンサーを記録する」プロジェクトを開始。同プロジェクトは、演劇作家の渡辺美帆子、ダンサーの遠藤僚之介と共同して企画運営している。



《嵐のあとの庭で子を導こうとする母親の歩みと生命の循環のきらめき、又は様々な次元の交感が巡るところ》2020

第152回 明倫茶会

英ゆう 展覧会『作庭ひらく』

き か おん ざ

英ゆう・植彦 オンライン茶会『帰家穩座』

京都芸術センターの開館より20年間、さまざまな分野で活躍する文化人を席主として迎えて開催してきた「明倫茶会」では、美術家の英ゆうさんを席主に、また庭師であり茶人である植彦さんをお招きし、展覧会とオンライン茶会を開催します。

室内に外(庭)空間を作る作庭というコンセプトで、和室「明倫」の中にイメージーションの庭をひらく、英ゆうさんによる展覧会を開催します。植木など自然の私たちをモチーフとする英さんの絵画作品は、その空間に対する独特のひろがりによって、室内にしながら鑑賞者の意識をうつくしい自然の世界へと誘います。絵画はどんな風景も作り出せる窓、もしくは何処へでも繋がる扉となってイメージーションをかき立てます。またそれは、一人ひとりの鑑賞者の美意識と結びつくことで、それぞれの人の心にとって本人だけの庭となって現れます。

展覧会の会期中には、この展示空間をしつらえとしてオンラインによるお茶会を開催します。テーマは「帰家穩座」、長く旅に出ていた人が、久しぶりに家に帰ったときに感じるような穏やかな気持ちを意味します。「一座建立」を精神とするお茶会では、甘雨庵・植彦さんにお点前を務めていただき、参加されるお客様には特別に

手作りした竹の茶碗や茶合を事前にお送りします。お茶を頂くひとときのために用意する若竹のお道具は、英さんの展示空間のコンセプトと重なり合いながら、それぞれの参加者にとってかけがえのない時間を演出します。そして、お茶会ではオンラインで配信する煎茶のお点前を見ていただきながら、キットを使って一緒にゆっくりと、ご自身で淹れていただく独茶という作法をお愉しみいただけます。絵画作品が庭となってひろがる空間で、庭師であり茶人である植彦さんがお茶席を設けることでイメージを繋げ、それはオンラインで参加していただくお客様のもとにひろがっていきます。イメージーションによって場所を超え、くつろいだ気持ちで集い語り合う、新しい形のお茶会にぜひご参加ください。

明倫茶会をずっと愛してくれていた方も、お茶会が初めてだという方も、みなで集うことが難しい時代だからこそ、繋がり合えることに望みをかけてご参加いただければ幸いです。 箕浦慧(アートコーディネーター)

Profile

英ゆう(はなぶさ・ゆう)

1973年京都生まれ。大学院在学中Royal College of Art(イギリス)への交換留学を経て、1998年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。2004年文化庁新進芸術家海外派遣制度によりタイ王国チェンマイにて滞在制作、2007年より京都市文化芸術特別奨励制度を受けてタイ王国バンコクにて滞在制作、2009年ポー美術振興財団在外研修員、2011年京都市芸術新人賞受賞。個展「Floating Illusion」(PSG Art Gallery、バンコク、2009、日メコン交流年正式認定事業)、個展「外を入れる」(京都芸術センター、2010)ほか。

植彦[甘雨庵](うえひこ/かんうあん)

1981年神奈川生まれ、京都在住。20歳より造園業を始める。25歳より煎茶道を始め、甘雨庵建築、露地作庭。36歳より自宅の茶室(甘雨庵)にて茶事を開催。

英ゆう 展覧会『作庭ひらく』

日時：2月13日(土)～27日(土)

※2月22日、23日は明倫茶会実施のため休廊

会場：和室「明倫」

英ゆう・植彦 オンライン茶会『帰家穩座』

日時：2月23日(火・祝)

11:00/14:00/16:00(各45分)

会場：オンライン

申込：右のQRコードもしくは

京都芸術センターウェブサイト

から詳細をご覧ください

(<https://www.kac.or.jp/events/29675/>)



※P2もご覧ください



京都芸術センターは、
2020年4月に開設20周年を迎えました!

テーマは“We Age”
(ウィー・エイジ)

(ロゴデザイン：松本久木)

20周年記念グッズ紹介

京都芸術センター開設20周年を記念し、オリジナルグッズを作成しました。窓口にて販売しておりますので、お手に取ってご覧ください。

- ステッカー…200円
- ノート…400円
- [数量限定]ピンバッジ…1,300円
- 風呂敷(赤・青)…1,200円

※すべて税込

販売：京都芸術センター窓口
(10:00～20:00)





新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間20:00に閉館します。
最新情報はウェブサイトでご確認ください。

公式ウェブサイト | <https://www.kac.or.jp>

Facebook: [kyotoartcenter](#)
Twitter: [@Kyoto_artcenter](#)
Instagram: [@kyotoartcenter](#)

YouTube: [KYOTO ART CENTER 京都芸術センター](#)

京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

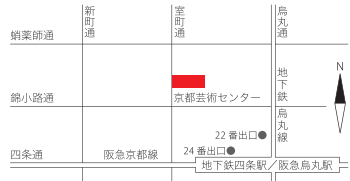
交通案内

- 市営地下鉄丸太線「四条」駅/阪急京都線「烏丸」駅
22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四條烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

- ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口 10:00～20:00
- カフェ 10:00～20:00
- 制作室、事務室 10:00～22:00

※開館・閉館時間はウェブサイトでご確認ください。



〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004
E-mail: info@kac.or.jp

指定管理者：公益財団法人京都市芸術文化協会